

呉工業高等専門学校	開講年度	平成28年度(2016年度)	授業科目	体育
科目基礎情報				
科目番号	0019	科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	環境都市工学科	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	なし			
担当教員	丸山 啓史			

到達目標

- 自分の体力レベルを把握できる。
- ゴルフを行う上でのエチケットやマナーを理解できる。
- ピッティングの基本的な打ち方ができる。
- 方向・距離感覚を修得し、ある程度狙ったところに打つことができる。
- バドミントンの基礎技能をゲームで生かすことができる。
- バドミントン(ダブルス)の団体的技能をゲームで生かすことができる
- バドミントンのゲームを企画・運営ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分の体力レベルを適切に把握できる	自分の体力レベルを把握できる	自分の体力レベルを把握できない
評価項目2	ゴルフの技能を生かすことが適切にできる	ゴルフの技能を生かすことができる	ゴルフの技能を生かすことができない
評価項目3	バドミントンの技能をゲームで生かすことが適切にできる	バドミントンの技能をゲームで生かすことができる	バドミントンの技能をゲームで生かすことができない

学科の到達目標項目との関係

JABEE環境都市工学プログラム(B) 本科(HA)

教育方法等

概要	新体力テストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。生涯にわたってスポーツを親しむという観点からゴルフ、バドミントンを学習する。基本的な個人技能を高めるとともに、効果的な練習方法、エチケットマナー、ゲームの企画や運営方法、審判法などを理解させる。
授業の進め方・方法	基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。
注意点	学校指定の体操服及び体育館シユーズを着用すること。体力づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週 オリエンテーション・新体力テスト	1. 新体力テスト 新体力テストの説明 各種目の測定 得点集計自己評価
		2週 新体力テスト	
		3週 集団行動・体育祭または球技大会の種目	2. 体育祭または球技大会種目 体育祭または球技大会種目の練習
		4週 ゴルフ	3. ゴルフ コース・競技の進行・ゲームの勝敗・エチケット、マナー、クラブの種類と性能の説明、個人技能（安全確保、グリップの握り方、スイングの体得）の修得、打球の方向性と距離感覚の修得
		5週 ゴルフ	
		6週 ゴルフ	
		7週 ゴルフ	
		8週 ゴルフ・スキルテスト	
	4thQ	9週 バドミントン	4. バドミントン ルール・審判方法・ゲーム方法の説明、班編成 基礎技能（ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン、ライトサービス、サーブレシーブ）の修得 ダブルス・ゲーム
		10週 バドミントン	
		11週 バドミントン	
		12週 バドミントン	
		13週 バドミントン	
		14週 バドミントン	
		15週 バドミントン・スキルテスト	5. 持久走 長距離走の練習
		16週 バドミントン・スキルテスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2	前4,前9,後1,後3
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。		

			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができます。	2	前4,前9,後1,後3
			先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができます。	2	前4,前9,後1,後3
			目標すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	前4,前9,後1,後3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0